

## 牛群検定通信 No167

### ～ 栄養管理と観察方法（3） ～

12月号、2月号に引き続き、栄養管理と観察方法についてのお話です。前回は肉付きの話でしたが、今回は体表面の毛艶について、述べていきます。

毛艶は牛の健康状態や、エネルギーバランスの微妙な変化を見ることができると考えおり、一般的には艶が良いのが健康的と考えられますが、基準というものは定められていません。牛の場合、毛艶が良いと思われる原因を私は脂肪に関係している、つまり、皮脂が艶を出しているのではないかと考えています。皮脂とは毛根の付け根から出ている油のことです。このことを栄養との関わりで考えると、皮脂が多いということは栄養的にはバランス上タンパク質よりエネルギーが多い状態ではないかと推測され、エネルギーとタンパク質のバランスを見る指標として使えるのではないかと考えています。そこで、酪農現場では、次の4段階で牛の毛艶を測っています。

- ①艶がない（同時にボサボサしている場合が多い）
- ②シャンプーをした後のような光沢
- ③ピカピカしている
- ④脂が付いたようにテカテカしている

この区分けで分かり難いのは②と③、③と④の区別です。通常毛艶があっけきれいに見えるのは③の状態ですが、詳細に見ていくとこれはきれい過ぎる状態（脂分が多い）で、本当に状態が良いときの毛艶は②のシャンプーをした後の毛の艶をしているときと言えます。③と④の違いは、④の場合は、頭髮をポマードで塗り固めたときのような光りかたをしているか、或いは触ると手がべとつくような感じに見えますので、注意して観ていると直ぐに分かるようになります。これらの状態が意味するものは、

①は栄養が足りないか、病気

②の状態が過不足のない、良い状態

③太り始める前兆で、エネルギーが少しだけ多い状態

④かなりエネルギー過多で、既に太り始めている牛の毛艶  
であると考えています。

このような考え方からすれば、毛に艶がないということはエネルギーが足りないということを示しており、同時にボサボサしているということはタンパク質も足りないということを示していると考えており、①の状態は全体的に栄養が足りない状態、つまり、飼料摂取量が足りないか病気などで飼料が食べられていない状態であると思われます。③の状態はほとんど合格点なのですが、この状態は少しエネルギーが多い状態であるため、これが続くと腰角の前に脂肪が付き始めますので、早めの対策が必要です。④の状態は重症です。この状態になると肉付きもかなりになってきており、また、痩せにくい体になっていますので、修復にはかなりの根気が必要となっています。こうならない前に対策が必要です。

更に、この毛艶の状態と先に述べた肉付きの状態を勘案すれば、太り始めているのか、痩せ始めているのかが分かるようになります。つまり、その牛の状態に対してエサが過剰になってきているのか不足し始めているのかが分かるようになり、過不足が分かるようになってくるのです。

(渡邊)